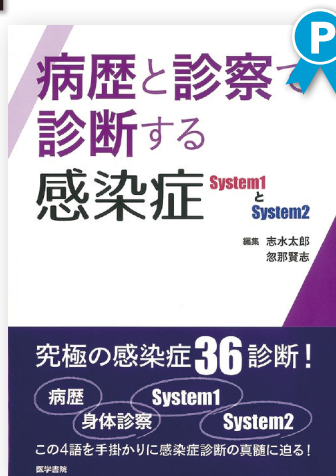




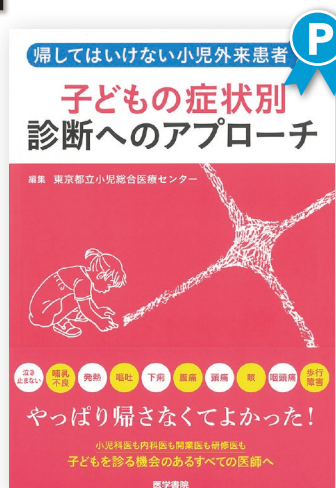
病歴と診察で診断する感染症 System1 と System2

志水太郎、忽那賢志＝編

本体 4,200 円＋税／B5 判・236 頁／医学書院／2018

本誌の人気特集シリーズ「感染症を病歴と診察だけで診断する！」の Part 1～3 が、まとめて 1 冊になりました！

近年、感染症診断法の進歩はめざましい。しかし、検査が充実すればするほど、臨床現場では「病歴」と「診察」が軽視される傾向にある。本来、感染症の診断で最も重要なのは、感染臓器・病原微生物を突きつめること。そしてこれは、病歴と診察で可能なかぎり検査前確率を高めることによってなされるべきなのだ。「病歴」と「診察」にこだわった執筆陣が“匠の技”を伝授する！



帰してはいけない小児外来患者2 子どもの症状別 診断へのアプローチ

東京都立小児総合医療センター＝編

本田雅敬、三浦 大、長谷川行洋、幡谷浩史、萩原佑亮＝編集代表

本体 3,800 円＋税／A5 判・272 頁／医学書院／2018

『帰してはいけない小児外来患者』（2015）に続編が登場！ 泣き止まない、哺乳不良、発熱、嘔吐、下痢、腹痛、頭痛、咳、咽頭痛、歩行障害……。多様な主訴で外来を訪れる患者のなかに、“帰してはいけない子ども”が紛れていないか？ 判断に悩みがちな 17 症状のレッド＆イエローフラッグ、診断へのアプローチ、そして帰宅の判断（グリーンフラッグ）をまとめた。臨場感あふれる症例も掲載。危ない症状に気づけるようになる、実践的な 1 冊。



小児科外来処方マニュアル

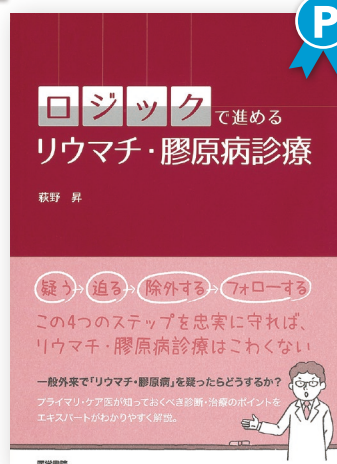
清水俊明、田久保憲行＝編

本体 3,200 円＋税／B6 変判・240 頁／医学書院／2018

小児科外来で日常的によく遭遇し、かつ治療薬の選択に迷いやすい症状・疾患を厳選。その基本的な注意事項と処方をポケットサイズにまとめた、きわめて実践的なマニュアルが初登場。今まさに必要な処方の指針として。うっかり忘れやすい知識のリファレンスに。そして最新知識の効率よい吸収のために。必要な時に知りたい事項をすぐに探すことができる本書は、小児を診るすべての医師にとって、今日から役立つ＋頼りになる！

#医学書院の新刊

本欄で紹介した書籍は、読者アンケート(p.827)にご回答いただいた方に、抽選でプレゼントいたします。

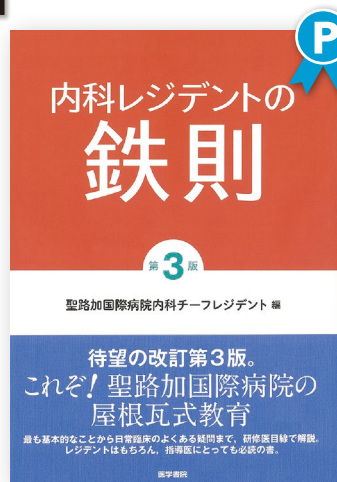


ロジックで進める リウマチ・膠原病診療

萩野 昇=著

本体 3,800 円+税/B5 判・176 頁/医学書院/2018

すぐれた若手リウマチ内科医・指導医として知られる著者が、その診療ロジック(思考経路)を惜しげもなく開陳する。プライマリ・ケアの場で一般医は、リウマチ・膠原病を「どう疑い」「どう追い詰める」べきなのか、治療薬を「何を」もとに決定し、どう使用するのか」などの診療の基本を、著者ならではのロジックをもってわかりやすく示した。すべてのプライマリ・ケア医が読むべき、「通読できるリウマチ・膠原病の教科書」が登場した。早くも重版!



内科レジデントの鉄則

第3版

聖路加国際病院内科チーフレジデント=編

本体 3,800 円+税/B5 判・344 頁/医学書院/2018

臨床現場で最も大事なこと——蓄えた知識を最大限に生かし、緊急性・重要性を判断したうえで、いかに適切な行動をとれるかということ。本書は、まさにここに主眼を置いて構成。よく遭遇する教育的な症例をベースに、絶対知っておきたい知識を整理するとともに、どのようにワークアップし動くべきか、ということが一貫して強調されている。今回の改訂では、基本から少しアドバンスな内容まで、最新の知見も記載。参考文献もさらに充実。



専門医が教える

研修医のための診療基本手技

大村和弘、川村哲也、武田 聡=編

本体 5,000 円+税/B5 判・304 頁/医学書院/2018

ジェネラリストの養成に注目が集まっている現在、これからの臨床医には一定水準の診察、基本検査、救急を含めた手技の習得が欠かせない。本書は、各領域のより確実な診察・基本検査・手技について、研修医がつまづきやすいポイントを踏まえつつ、専門医ならではのコツを解説したもの。豊富な写真とシェーマにより、明日から使える基本診察法、ベッドサイドの手技が確実に学べる。